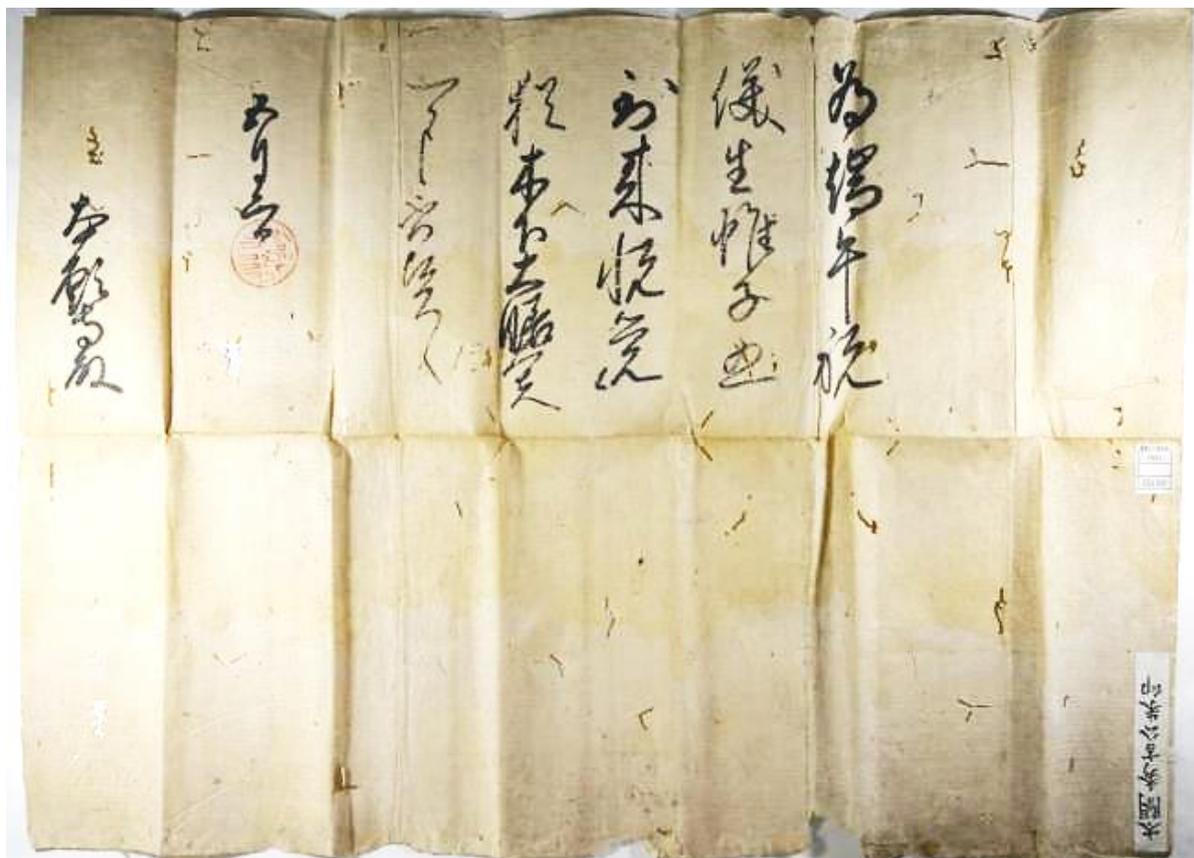


天下人 豊臣秀吉の書状

展示期間 令和8年1月6日(火)～2月27日(金)



【釈文】

為ニ端午祝

儀一、生帷子五

到来、悦覚候、

猶木下大膳大夫

可レ申候、穴賢く、

(秀吉朱印)

五月二日 印

本願寺殿

〔豊臣秀吉朱印状〕（年不詳五月二日）

※文禄3年（1594）もしくは文禄4年（1595）に発給か

八木健次家文書 P09702 No.1592-7（複製）

（形態：折紙、原寸：縦46.2cm×横65.3cm）

端午の節句に本願寺が帷子^{かたびら}を献上してきたことへの秀吉からの礼状である。秀吉の側近であった木下吉隆^{よしたか}（?～1598）が発給に関わっていたことが分かる。文書の発給年代は記されていないが、木下吉隆は文禄2年（1593）10月6日までは大膳大夫に任じられ、同4年7月13日までは秀次事件に関与し流罪が決定しているの、文禄3年か4年の5月に出された文書と推定できる。

秀吉は本文書発給直前の文禄2年（1593）に、教如^{きょうにょ}（1558～1614）を本願寺門主から退け、弟の准如^{じゆんにょ}（1577～1631）を新門主に据えている。今回紹介した文書は、そのような本願寺教団分裂のさなかに発給されたと思われる文書であり、天下人秀吉と本願寺教団の複雑な関係をうかがい知ることが出来る興味深い史料である。

豊臣秀吉

天文6年（1537）～慶長3年（1598）

天文6年（1537）、尾張国に生まれる。織田信長に足軽として仕え、次第に頭角をあらわした。天正10年（1582）、本能寺の変で主君織田信長が落命すると、仇敵明智光秀を山崎の戦いで破り、信長の後継者争いの主導権を握る。同18年（1590）には小田原の北条氏を滅ぼし天下統一を達成。太閤検地や刀狩りの実施、石高制の導入など近世社会の礎を築く。慶長3年（1598）没。

なお、秀吉は天正13年（1585）7月に関白に任官されるが、この頃から署名に花押を据えず、紹介した文書のように朱印を多用するようになる。日明貿易などで生糸を輸入した際に使用された糸印を模して使用したとされるが、詳細は不明である。

【参考文献】『新版日本史辞典』（角川書店）

『ぐんまの古文書続編』（群馬県立文書館）



豊臣秀吉像：京都高台寺蔵